

普及現地情報

地元酒造会社と連携した酒米生産に向けた新たな取組み（芦北）

津奈木町倉谷・古中尾地区は、昨年度中山間農業モデル地区の設定を受け、現在、農地維持や農家所得の向上につなげる農業ビジョンを作成していますが、そのなかで、地元酒造会社と連携した酒米生産づくりを検討しています。

「過去に公害が発生した地域だからこそ、環境に負荷をかけずに栽培された米で酒造りを行いたい」という、酒造会社の思いに応えるため、本年度の酒米づくりでは、除草剤を使用しない布マルチを利用した農法に取り組んでいます。布マルチ法は綿をシート状に加工した2枚のシートの中に、種もみを挟み込んだ布マルチを、水田に敷き詰め、本田で発芽、生育させる方法です。水管理や倒伏対策に工夫が必要ですが、シートが雑草の発生を抑えるため、農薬に頼らない除草が可能です。

5月19日23aの水田に、関係者約20名で布マルチを設置しました。当課では、今後も生育状況や収量性を確認しつつ、栽培技術指導・支援を継続していきます。



(写真1) 製造業者による事前説明



(写真2) 布マルチ設置の様子

種 類：③普及活動（途中経過）

関連する普及課題名：中山間地域農業の振興

HP掲載可否：可

連絡先

県南広域本部 芦北地域振興局

農業普及・振興課

地域農業支援班 林田亮太